



日立一高ラグビー部OB会 会報

* 創部60周年記念事業を盛大に開催 *

皆様のご協力をいただき、6月17日(土)日立一高ラグビー部創部60周年記念事業が盛大に開催されました。
(別冊「記念事業特集号」も、併せてご覧ください。)

記念招待試合 (於: 日立一高グラウンド)

OBチームは、元全日本代表の吉野俊郎氏(昭和53年度 第31回卒)を始めとする豪華メンバーで貫禄の勝利。

現役チームは、苦戦が予想されましたが、黒子で入った(はずの)OB3氏の頑張りもあって、見事勝利を手にし、60周年記念事業に花を添えました。

(現役) 日立一高 20 - 10 太田一高

(OB) 日立一高 59 - 12 太田一高



記念式典・祝賀会 (於: ホテル天地閣)



OB141人、現役・来賓等29人の総勢170人が集い、厳粛な中でも盛大に開催されました。

OB会長あいさつ・来賓祝辞等に続いて、長年に亘りOB会の運営にご尽力いただいた鈴木清介初代会長・内山光志初代幹事長に感謝状を贈呈し、和やかな雰囲気の中に祝賀会へと移行しました。

新旧OBが思い出話に花を咲かせ、懇親を深める中、情熱溢れる指導でラグビー部の発展に貢献した尾又篤氏にも特別感謝状が贈呈されました。

記念誌発行 (B5版 136頁 600部)

創部50周年以降の10年間を中心に「この10年のあゆみ」として発行しました。併せてOB名簿の整備を行い、OB総数633人、うち物故者31人と連絡先不明者78人を除く、524人について名簿を整備しました。

記念品贈呈 (現役部員へ)

現役部員にすぐに役立つものをということで、セカンドジャージ30着(黄色×黒)を贈呈しました。なお、同ジャージは、記念招待試合でOBチームが「水通し」を兼ねて着用し、クリーニングしてから贈呈しました。

○ 平成18年度学年幹事会(定例総会)開催

前年度の事業報告、本年度の事業計画等を審議する学年幹事会が8月26日(土)に出席24人(委任状30人)で開催され、近藤幹事長から議案の説明があり、原案通り承認されました。その要旨を議題に則りご説明します。

1. 創部60周年記念事業報告

前項で報告しました事業を滞りなく行うことができ、金銭上も予定通り通常OB会運営費分を残しての会計報告ができました。皆様のご協力に感謝申し上げます。

尚、この機会に制定した”年会費制の導入”についてはOB会員皆様の毎年の納入を宜しくお願いいたします。

2. 平成17年度活動報告

2. 1 重点方針のFW

“現役の支援強化により平成20年度までにAクラス確保”

平成17年度は単独チームとしての部員確保ができない状況で練習指導どころでなかった。18年度に入り監督が変わり、心機一転の構えで臨み新入部員が11名入り、やっと単独チームとしてのメンバーがそろい、毎日の練習、練習試合、合宿などができるようになった。Aクラスへの挑戦はこれからというところ。

2. 2 活動報告

- 1) 役員会、学年幹事会の定期開催
- 2) OB会報の定期発行
- 3) 現役指導の強化
- 4) OB会員の親睦・交流一蹴り染め、ゴルフコンペなど 予定通り実行した。

2. 3 会計報告

上記活動を予算内(529,334円)で遂行し、その結果当年度繰越金は876,001円と減少した。
翌年以降の収入増を図らないと、今後のOB会運営は苦しくなっていく。

3. 平成18年度事業計画

3. 1 重点方針

- 1) 現役の支援強化ー平成20年までにCクラスからAクラスへ
- 2) 財政の健全化

3. 2 活動計画と事業予算

- 1) 学年幹事会の定期開催
- 2) OB会報の定期発行
- 3) 現役への資金援助
- 4) OB会員間の親睦・交流他の活動を前年よりきめ細かく実行するために800,000円を予算計上

3. 3 財政収支予算

- 1) 前年繰越金・・・2,541,703円 (60周年記念事業残金1,665,702円含む)
- 2) 当年度収入・・・・500,000円 (OB会費2,000円×250人、会員の50パーセント納入を見込む)
- 3) 当年度支出・・・・800,000円 (前段の活動計画費用として)
- 4) 当年度繰越金・・・2,241,703円

(お願い)

当年度収入以内での当年度支出が健全財政といえる。平成18年度は収入(500,000円)を上回る支出(800,000円)を計上しているのは年会費制の導入初年度で納入者へのPR不足で収入が少ないのでは?と懸念している。されば、支出を押さえるべきところであるが、現在、OB会活動を立ち上げている最中なので必要最低のことはどうしてもやりたい。

そこでお願いとして OB会会費の多くの方からの納入促進をお願いするものです。

9月末現在で162人から336,000円の納入を頂いております。OB会員で連絡がつく人は520人のなかで未だ31パーセントしか納入されていないのです。

会費年当たり2,000円以上ですので3,000円、5,000円それ以上の方を歓迎いたしております。

この会報を見て事務局宛て振り込んで頂けることを切にお待ちしております。

4. OB会規約改定

60周年を契機に平成18年度から”OB会員から年会費2,000円以上の会費を徴収する”を規約に追加する。

5. 役員の改選

規約では毎年役員の改選をすることになっており、現在の吉田会長以下17人の役員から深谷充志氏(昭和54年度 32回卒)が退任し、16名の任期を延長する。

○ 日立一高ラグビー部 監督交代 新たに監督補佐のコーチを置く

平成18年3月末で、12年間に亘り監督としてご指導をいただいた吉沢和彦先生(OB・昭和54年度 第32回卒)が、茨城県教育庁保健体育課に転出され、4月から鈴木康之先生(仙台大学卒)が着任されました。

お二人から、それぞれごあいさつをいただきます。

なお、学校からの要請で、尾又篤氏(昭和36年度 第14回卒)がコーチ(監督補佐)として就任しています。

「退任あいさつ」 吉沢和彦 前監督

この度の異動により県教育庁に着任しました。日立一高ラグビー部在任中は、OBの諸先輩方をはじめ多くの関係の皆様方に大変お世話になり感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。新天地ではラグビーで学んだことを忘れずに何事にも一生懸命取り組みたいと思います。

就任当時「全国大会へ」を目標にスタートし、指導してきたわけですが、目標達成はおろか部の存続が危ぶまれるほどの状態も経験し、自分自身の指導力のなさを痛感させられた思いがします。在任前半は、関東大会を目標に、さらに全国大会予選では優勝を目標に臨み、平成6年度、8年度と関東大会へ出場したものの新入部員が3人、0人となってからは、どんな練習をするかよりも、いかに部員を確保するかが課題で、いろいろチャレンジしてはしてみるが思うような結果が得られず、特効薬も見あたらず瀕死の状態でいることが長く続いたような気がします。そのような中、平成16年度はメンバーに恵まれ、関東大会を狙えるチームができ、出場には及びませんでしたが、ラグビー部に少しでも活気が戻った時期でした。

今回の異動で、情熱溢れる鈴木先生にバトンタッチし、今後は、ラグビー部の発展と鈴木先生のますますの活躍を期待し、一OBとして陰ながら協力ができればと考えています。

OBの皆様方の今までのご支援ご厚情に心から感謝し退任のごあいさつとします。ありがとうございました。



「新任あいさつ」 鈴木康之 新監督

OBの皆様はじめまして、本年4月に日立一高ラグビー部監督に就任しました鈴木と申します。

創部60周年という、この記念すべき年に、監督として部員の指導に当たれることを誇りに思うとともに、60年に亘る歴史と伝統の重さを感じております。

また、母校(磯原高校)在学中は、同じ県北の雄として日立一高とは何度も対戦し、



互いに切磋琢磨したことを、今でも昨日のことに思い出します。

これまでの日立一高の輝かしい戦績（全国大会出場5回、関東大会出場28回、県内公式戦111連勝など）、日本代表・高校日本代表選手の輩出、OBの大学・企業チームにおける活躍やラグビー協会役員としての普及振興への貢献などは、茨城県のラグビー界に大きな足跡を残しており、これら先輩諸氏の活躍に劣らぬラグーマンを育てることが、私の大きな務めであると考えております。

これからも、OB諸兄、歴代部長・監督、保護者の皆様等、多くの方々の御支援と御指導のもと、名門・古豪復活に向けて、基本に立ち返りひとつひとつのプレイを大切にしながら部員を育て、日立一高の名に恥じぬチームを作っていこうと思います。

微力ではありますが、精一杯頑張ってまいりますので、何卒ご支援・ご助力を賜りますようお願い申し上げます。

○ 平成18年度夏合宿

今年度の夏合宿には、吉田会長、尾又副会長（一高コーチ兼任）、近藤幹事長、金澤氏の地元スタッフのほか、早稲田大学元監督・現防衛大学校助教授の益子俊志氏（昭和53年度 第31回卒）が、臨時コーチとして参加しました。以下、益子氏から、菅平での夏合宿の様子などをご報告いただきます。

「夏合宿に参加して」 益子俊志

彼らを見たのは6月のはじめの練習会だった。創部60周年試合に向けての強化で練習試合をしていた。磯原高校に圧倒され、かわいいと言うかひ弱ささえ漂わせていた。聞けば1年生が始めて試合をしたとの事であった。そして6月18日、記念試合が太田一高と行われた。私は自分の目を疑った。2週間前と同じチームかと。こんなにも高校生は成長するものか。選手たちの日々の努力はもちろんであるが、指導者にも頭が下がる。かくして、夏の菅平合宿の参加を約束してしまったのである。



8月5、6、7日と3日間は試合中心の合宿であった。試合の前後に練習をして、午前・午後とハードな日程でも選手はいつもはつらつと楽しんでいるように見えた。まずはラグビーを好きになる、楽しむ意味では非常に良かった。

私も日立一高の合宿に参加するのは、大学卒業して以来初めてのことであった。なかなか練習時間を確保することが出来ないため、終始内容の説明理解に時間を割いてしまい、反復練習とはいかなかった。感じたことは、やはり日立一高生は理解が早いということ。（だからと言って、すぐにプレーには結びつかないが）以下今後チームを作り上げていく上で必要なことを列挙する。

① セットプレーの安定強化

セットプレーには、スクラム、ラインアウト、キックオフ、ドロップアウト、ペナルティがある。どのレベルにおいても（高校生から国際レベルまで）これは不可欠である。スクラムは高校生ルールで1.5メートルまでしか押せないが、これも来年から大人と同じルールに戻そうとする意見がある。1.5メートルも押せることは、相手には相当プレッシャーだし、相手ボールを奪うことも容易である。スクラムをどうやって強化するかと尋ねたら、ほとんどの人は、何十本も人で組む練習を繰り返すことが良いと答えるだろう。もちろん反復練習は必要だが、スクラムにも理論がある。それを無視していくら組んでも意味が無い。頭で理解して一番いいスクラムの形をマシンで覚えてから人と組む。これの繰り返しが必要である。ラインアウトは、昔と違ってリフティングが認められており、アタック側が断然有利である。ボールを確保することが優先であるが、どこの位置で確保することが、次のアタックに有効なのかまで考えて練習することが大事である。また、ディフェンスについては、ド

ライビングモール対策をしっかりと考えなくてはならない。相手に押され始めたら防御のしようがない。キックオフ、ドロップアウト、ペナルティはリスタートする上で、流れがどちらに来るか重要なプレーである。キックオフは毎日時間を割いて、スクラム・ラインアウトと同じくらい練習すべきである。

② ディフェンスの強化

近代ラグビーにおいて、ディフェンスは大変様変わりした。リーグラグビーからピラーシステムを取り入れ、豪州がワールドカップで優勝したが、最近では、攻撃側が有利なルールで、待つディフェンスではいつになっても、ターンオーバーできないし、足が速くないと破綻することで、世界的にも変わりつつある。ディフェンスの基本は、いかに前に出てタックルするかで、ラグビーの原則であるゲインラインの攻防なのである。出足の早いディフェンスで相手にプレッシャーをかけることによって、ミス誘発させたり、パスのタイミングをずれさせたりすることができる。もちろん、いくらシステムを確立しても個々のタックルがはずされたら駄目だが。

③ 接点の強さ

ラグビーは相手に触られないでトライまでいければよいが、常に接触するのが、ラグビーの面白いところである。ボールを持ち込んだ時の球出し、またはディフェンス時におけるタックルの強さ。接点で自分たちが押し込むか、押し込まれるのかで大きな違いである。たとえそれが10センチメートルであってもチームには大きく影響するのである。

④ スピード&フィットネス

以上3点について一般論的に書いたが、それを行う上でスピードとフィットネスは必要不可欠なものである。先日、早稲田大学とオックスフォード大学の試合があったが、オックスフォードのセンターはジョー・ロフと言って、豪州のキャップを86も持っている世界的にも有名なプレーヤーである。彼は派手なプレーをするのではなく、パスしてサポート、タックルしてすぐ起きて又タックル、ボールを受ける時のスピード。基本に忠実にプレーしているだけなのである。全てのプレーのスピード、最後までプレーし続けるフィットネスが必要なのである。体格的に劣っていても、これで補うことは、歴史が証明している。

⑤ メンタルタフネス

ラグビーと言う競技は、外から監督の指示を受けず、選手たちが判断しプレーを選択していく。キャプテンがチームを牽引し、瞬時に個々の選手が判断、決断をしいられる。相手がどんなに強かろうと大きかろうと、戦う気持ちと冷静な頭を持ち続け果敢に挑まなくてはならない。練習のための練習になっていないか。試合のための練習、試合の状況をイメージして毎日訓練してもらいたい。時には、限界を超えるために、コーチが厳しく指導することも必要だろう。自分の限界は誰か第三者に強制的にやらされると越えられないものである。

最後に強化と言う観点からははずれるが、ラグビーの持つ魅力を高校生は理解し成長してほしいということ。ラグビーのスタイルだけを見ても分かる。紳士（フォーマル）はホワイトシャツにブラックシューズ。ラグビージャージの襟は以前はみんな白だった。スパイクは黒だった。これを何故って英国人に聞いても、「It's tradition」と答えるだけだろう。運動機能的、ファッション的に考えると最近のスタイルになっていくのだろうが、私は嫌いである。ラグビーの魅力である、ノーサイド、レフリー絶対等の紳士的精神を大事にして、精進してもらいたい。現代社会は、理論的パワー的に強いものが世の中を席卷しているが、最後は人対人だと信じている。そういう普遍的な人間らしい大人になる一助にラグビーが存在することを祈るばかりである。



○ 今年度の戦績

【新人大会】 1回戦 合同C（日立一・中央・土浦工） 7 - 17 勝田工

3年生（4人）・2年生（5人）に加えて1年生（9人）が入部し、マネージャー（5人）を含めて合計23人で新年度のスタートを切った。しかし、1年生はすぐには試合に出られないため、関東大会予選も合同チームでの参加となった。

【関東大会予選】 1回戦 合同B（日立一・土浦工・取手一） 7 - 60 勝田工

【県総体（兼）国体予選】

今年度から、今までの大会の戦績をポイントに換算し、ブロック制での大会となった。本校は単独での出場を目指したが戦力が整わず、またも合同チームでの参加になった。

Eブロック 1回戦 合同B（日立一・土浦工・取手一） 17 - 10 合同C（勝田・茨城東）
2回戦 合同B（日立一・土浦工・取手一） 0 - 34 合同A（中央・紫水・国際）

【菅平合宿】 日立一 0 - 21 伊勢崎（群馬） 日立一 15 - 32 日生第二（三重）
日立一 19 - 19 太田一（茨城） 日立一 0 - 19 昭和第一（東京）
日立一 0 - 28 TRFC 日立一 19 - 0 名市工（愛知）
日立一 0 - 26 桜台（東京） 日立一 0 - 7 関東学園
日立一 0 - 19 長姫 日立一 27 - 7 山城（京都）
日立一 10 - 12 仙台（宮城）

○ 今後の公式戦日程

【全国大会県予選】 10月14日（土）10:30 1回戦 対 勝田 堀原B
20日（金）11:00 2回戦 対 下館 勝田工G
28日（土）14:00 3回戦 対（水城とつくば国際の勝者） 堀原A
11月 4日（土）12:00 準々決勝 対 茗溪 ト伝の郷
11日（土）11:00 準決勝 堀原A
18日（土）13:00 決勝 堀原A

【新人大会】 12月23日（土）1回戦
1月 8日（月）2回戦
13日（土）3回戦 } いずれも堀原（詳細は後日お知らせします。）

○ あの人は今

第5号から、20～30歳代・40～50歳代・60歳以上の各世代に、お一人ずつ昔の思い出や近況等のご紹介をいただくコーナーを設けました。

今回（第3回）は、近藤雅年さん、照沼康彦さん、金澤勉さんの3人にお願ひしました。お忙しい中ありがとうございました。

「酒湯会で遊ぶ」

近藤 雅年（昭和32年度 第10回卒）



一昨年の役員改選でOB会幹事長となりました近藤です。

会社での現役時代は総務・勤労の仕事を通じ、他人のため・会社のためとまるで自分・家庭を省みない生活をしておりまして。そんなことから定年退社後は家庭を基点に自分探しをしようと決めて人生の再スタートを切ったところに幹事長を推薦されたので、とんでもないと固辞したのですが、吉田先輩(会長)からの命令だと云われやむなく受諾しました。受けたからには中途半端は大嫌いなので出来る限りOB会の為になろうと努めているこの頃です。

さて、本日のテーマ”あの人は今”に入ります。

わがラグビー人生は日立一高にはじまり、一高OB中心で作ったポパイクラブの設立時からの参加、その仲間で作ったポパイジュニアクラブでのわが子を入れての指導支援、そして40歳を迎えての常陸不惑クラブの設立時からの参加と地元の仲間と楽しむラグビーをして参りました。

勤務先の日立製作所グループで働く多くの方は全国から集まって来ている外様の方で、私のように仕事を離れた時に幼少時代からの地元の仲間、特にラグビー仲間と遊ぶことで憂さを晴らしていた私に対し、羨ましく思われておりました。

拘束された現役生活が終わり、いつでも遊べる時がやって来たのですが、いつでも遊べるといっても遊ぶ仲間が集わねば遊べません。そこで、それまで何気なく遊んでいた地元の仲間と会を作り、遊び易いようにしました。行事への参加否は本人の自由で拘束しないことにしました。

酒と温泉で遊ぶことをメインにしているので会の名前を”酒湯会(しゅとうかい)”とし、行事は、(朝日)先輩宅庭園で年に3・4回のバーベキュー、年に2・3回の温泉・自炊一泊一万円旅行、月一回の平日ゴルフなど安価にできるもので楽しんでいます。



メンバーは、昔からのラグビー仲間の内山さん・大内さん(27年卒)、朝日さん(28年卒)、鈴木正典さん・大友さん(30年卒)、吉田さん(31年卒)、佐藤馨さん・山形さん(33年卒)、松永さん(40年卒)、そして会長・世話人役の近藤(32年卒)、事務局・世話人役の日立商業高OB東間さんなど。集まる度に、昔の良き時代の自慢話と最近の健康への不安のことばかり。そんな他愛のないことで盛り上がるのですから不思議なものです。私の女房云わく”男ばかりで、年の離れた男がしょっちゅう集まって楽しんでいるなんて気持ちが悪るーい”と。

それもこれもラグビーを愛した男同志のハートが通じているからのこと。利害関係が無く、あるのはスポーツを通じての先輩・後輩の上下関係のみ。これがいつまでも続く本当の生涯の友なのでしょう。

そろそろ秋空の下でバーベキューを囲み、いつもの話に花を咲かせる時が来ております。

「ずっと現役」

照沼 康彦（昭和52年度 第30回卒）

近況といっても、高校一年生のあの日から今もずっとラグビー現役です。土曜日AM、日曜日PMは東京の都立高校のコーチ。日曜日AMはラグビースクールで小・中学生の指導。それ以外の時間で昨年まで日本協会、今年から関東協会の広報のお手伝いをしています。何がモチベーションの糧かと問われてもことばで説明することは難しく、暇な



15分があれば新しい練習方法をひとつ考えることができるラグビー成熟期に入ったという感じです。

先日の60周年記念においては、幹事の皆様大変お疲れ様でした。私個人にとっても素晴らしい一日でした。私を育ててくれた母校日立一高の先輩方、同じ時代に汗を流した仲間、後輩たち、そして伝統を守ろうとひたむきに頑張る現役部員に会えて感無量でした。

思い起こせば私のラグビー最初の感動体験は、高校一年冬の新人戦決勝で北茨城高を破り優勝したことです。吉田先輩、尾又先輩をはじめとする熱心な先輩方から相手大型FWに対抗するための低く堅いパックのスクラム、そして今でいうハンドラック（相手とのコンタクト寸前にボールを後ろへ転がす、極端にはボールダウンしてから相手にあたりに行く）の特訓を受け、何度もFWからBKへの球出しのタイミングを練習したことを覚えています。その後、私が進んだ早稲田大学で大西鉄之介監督が明大の大型FW対策におこなった練習とほとんど同じことが、当時の日立一高で明大OBの先輩方から教わっていたわけです。

そして今までのラグビー人生で最も悔し涙がこぼれたのも高校時代でした。3年最後の花園予選の県大会決勝戦は、水戸農業の前に力尽きました。滑川先生の熱血指導（時には鉄拳でしたが）、尾又先輩らの変わらぬ愛情あふれるコーチを受けた若いチームでしたが、日立一高初の花園出場の切符をつかむことはできませんでした。ゲーム終了の笛が響いた瞬間からどれだけ泣いたのか、ラグビー一色だった高校生活の終わりは、まるで自分の時間だけが止まってしまったような感覚だったことを覚えています。

高校時代に青春の夢はかないませんでした。しかし、思い出は山ほど残りました。苦しかった夏の合宿。疲労の極限でも夜のスーパースター、同級の芳賀君のせいで少しも眠れなかったこと。ラグビー部に入部仕立ての益子君にも襲いかかってました。春合宿も君の寝坊で、練習時間が倍になりましたね。

また、夏には奥さんが実家に帰った滑川家での特例合宿もありました。滑川先生からはラグビー以外に、スポーツマンの夜の過ごし方などいろいろ勉強させていただきました。私の母親は今も先生を最高に信頼しています。

そんなかけがえのない時間を過ごした日立一高ですから、少しも忘れたことはありません。私の弟、芳彦もSHとして同じ道を選びました。その後、彼が花園で試合する際はいても立ってもいられずに駆けつけたものです。日立一高のラグビー部は現役、OB、先生方、父兄が一体となった非常に暖かなつながりを持った組織として誇れるものです。その一員として少し離れた地から、これからも現役部員を応援していきたいと思います。

「高校時代の思い出・・・そして今」 金澤 勉（平成4年度 第45回卒）

私が日立一高ラグビー部に入部したときは1年生だけで30人以上の部員がいて、3学年合わせると60人を越える大所帯でした。また父親が在籍していたので、花園に何回も出場していることや、その年の新人戦（野田浩太郎さんの代）で常総学院と優勝を分け合っていたのも知っていたので、ラグビーのルールもまともに分からない状態でも「県内で一番強い部にいるんだ」という誇り（驕り？）は持っていたと思います。

しかし、体が大きいわけでも、足が速いわけでもない私は練習についていくのがやっとでした。特に初めての夏合宿では、「人生でこれだけ走ったことがない。」というくらい走らされ、白亜会館の階段をまともに上がれないほどの筋肉痛になったことを今でも鮮明に覚えています。それでも、それだけの走りこみをした結果「走力ではどこに負けない。」という自信がつかまりました。



【中列の右端、白いシャツが金澤氏】

2年生になると3年生（梅沢正臣さんの代）の部員が少なかったこともあって、試合に出させてもらう機会が増えましたが、私たち2年生の力が足りなかったこともあっていい結果を出すことができず、3年生には申し訳なく思っています。自分たちが最上級生になったときには本気で花園を目指しましたが、茗溪や清真の力が予想以上に高く、その壁を越えることはできませんでした。また、私も不注意から夏休み明けにケガを再発してしまいチームに何の貢献もできなかったことが悔やまれます。その悔しさが大学でもラグビーを続ける原動力になったことは言うまでもありません。

大学卒業後は、日立に戻り財団法人日立市体育協会でスポーツ振興の仕事に従事し、現在は主にスポーツ少年団の仕事に取り組んでいます。生涯スポーツの入り口である幼少期にどのようにスポーツに接したか、どんな指導者に会えたかが子どもの将来を大きく左右します。多くの子どもたちがスポーツを好きになれる環境作りに少しでも役立てればと思っています。

最後にひとつだけ宣伝を。現在私はポパイクラブというチームでラグビーを続けています。「ラグビーをやりたい！ やってみたい！」というかたは初心者から経験者まで誰でも大歓迎です。活動状況はホームページをご覧くださいければと思います。1人でも多く一緒にラグビーができる仲間を待っています。

ポパイラグビーフットボールクラブホームページ <http://www.h6.dion.ne.jp/~popeye/index.html>

○ お詫びと訂正

6月17日に発行しました「創部60周年記念誌 この10年のあゆみ」の中で、101頁「OB会学年幹事名簿」から「1950年（昭和25年度）第3回卒 小林和郎さん」のお名前が漏れてしまいました。大変申し訳ございませんでした。誌面をお借りしてお詫び申し上げるとともに訂正をお願いいたします。なお、小林さんの連絡先等は、巻末の「OB会員名簿」に掲載されています。

○ 編集後記

OB会報は、年に2回（7月、1月）発行することになっています。それなのに今号は遅れて10月の発行になってしまい申しわけありませんでした。60周年記念事業を報告しようとしたため、などと理由をつけてはいけません。今後十分気をつけます。

60周年記念の祝賀会の席で、OB負担金を沢山出してくださった超OBの方にお礼のごあいさつをしたところ、「このところOB会報が定期的に送られてきて、忘れかけていた一高ラグビーを懐かしく思い出し、OB会活動を通じ現役を応援しようと思い、今までの不義理の侘びもあり、踏ん張って寄付をした。」と熱く言われました。

会報はコミュニケーションの第一歩と痛感させられました。 （近藤 雅年）

日立一高ラグビー部OB会報 第7号

発行責任者：幹事長 近藤 雅年（昭和32年度 第10回卒）

編集者：幹事 松永 啓（昭和40年度 第18回卒） 木下 俊雄（昭和54年度 第32回卒）

関 稔一（昭和57年度 第35回卒） 柴田 和則（昭和57年度 第35回卒）

笠井 知洋（昭和59年度 第37回卒） 菊池 敬（昭和61年度 第39回卒）

本田 浩一（平成2年度 第43回卒） 金澤 勉（平成4年度 第45回卒）

事務局：〒317-0065 茨城県日立市助川町3-7-4 木下俊雄気付

【電話】0294-21-4890（FAX同じ）